

A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価				改善策・来年度に向けて
				A	B	C	D	
向かうべき保育の方向	法人理念	子ども一人ひとりに寄り添い大切に育てる	・家庭環境など個々の育ちの背景考慮した上でねらいや関りの手立てを考えた子どもに寄り添った保育を行っている。		○			・法人理念を基に、園の全体的な計画は理解した上で、全職員が日々の保育を行っている。その上で①プラスの視点での思いの伝え合い②園内だけでなくグループ園内での研修の充実③時間の使い方④保護者支援については令和8年度のプランとしては、もう少しポイントを絞った目標を明確にしているのでそれらを意識をし、保育していきたい。 ・子どもの主体性を育てるために、乳児期では「好きな場所で好きな遊びを存分に楽しむ」ことを大切にしている。子どもの発達を十分に理解した上で、興味の持てるような環境構成を整えること、どんな関りが良いかを日々意識すること、園内研修などで語り合う事の出来る時間ももつようにしたい。
	園の基本方針	・子ども一人ひとりの発達や成長、その子を取り巻く環境をよく理解し、その子の少し先を見据えた「今」を大切に温かく丁寧な保育をする。 ・安心して子どもを預かる環境を作り、親が自ら	・「よく遊び・よく食べ・よく眠る」という生きる上での基盤を大切に、生活リズムを整えながら乳児期らしい安定した生活を送れるよう、1日の流れへの配慮をしている。 ・保育の中で一人ひとりが主体的に遊ぶ姿を育むことが出来るよう、子どもの経験・興味や発達に合った環境の工夫をクラス毎定期的に行っている。		○			
	園の目指す子ども像	・安定した生活を送り、健康な身体と豊かな心を持つ子 ・様々な経験をし、自分で試したり考えたりしながら元気いっぱい遊ぶ子 ・自分大好き！友だち大好き！先生大好き！な子	・年齢に応じて遊びの中で“やってみようとする気持ち。や”出来なくて悔しい気持ち、も経験できるような活動の中では（遊具など）挑戦する機会を持っている。		○			
	園の求める保育の視点	・子どもが自ら考え選択し、成功や失敗など多くの経験を踏めるような年齢に応じた関りや環境構成を行っている。 ・個々の育ちの理解に努め、愛情をもって接す			○			
保育について	子どもの人権	子どもの人権を意識した保育がされている	・自己の関りが不適切に当たらないかチェックシートを用いた振り返りや園内研修を行っている。		○			・子どもの人権を考慮した関りを常に意識していく。また、一人を抱え込むことが無いよう、声を掛け合ったり様子によって助けに入るなど、互いに思いやりの気持ちを持った保育を行っている。 ・乳児期に適したリズムで、心身ともに安定した生活を送ることが出来るよう、年齢に応じた生活習慣を園内で整えるだけでなく、家庭との連携も大切にしながら子どもが安心して過ごすことが出来る様に努めていく。
	0歳から積み重なっていく発達を学年をまたいで考えられる	0歳から就学前までの発達が理解できており、個や異年齢の関わりを大切に保育や保育の連続性を考慮した保育が行われている	・基本的な発達段階を理解した上で、月末には個々の発達の記録を担当間で振り返ることで一人一人に合ったねらい・援助・手立てを考え保育している。		○			
	つながる保育	日々保育の振り返りが行われ、今後の保育へつながるよう計画されている	・その時期・その日に経験したいことや育ちへの願いを具体化し保育を行っている。また日々、保育を振り返る機会をクラス間で行っている。		○			
	生活リズムの確立およびリズムの多様性への配慮	安定した穏やかな気持ちで園生活が送れるように子どもの目線になり落ち着ける時間や空間(環境)が保障されている	・朝の受け入れでは子どもの体調や機嫌等配慮すべきことを保護者から丁寧に聞き取り、安定した生活が送れるよう対応していた。 ・気候・週末の疲れなども配慮したうえで無理なく過ごせるよう配慮を心掛けている。		○			
	環境を大切に考える保育	育ちや発達に考慮し、関わりを行っている 自らあそび、チャレンジし、発想を広げられるような環境が整えられている	・発達や時期を考慮した遊び環境の変化や子どもの“今、の興味に合った保育内容や玩具の選定などこまめに行っていた。 ・安全計画に基づき、マニュアルの確認をMTの中で行い、内容を徹底できるように共有した。		○			
安全管理	マニュアル理解	安全計画や災害・事故防止マニュアルは実効性があるものが策定されており、職員が内容を理解し定着対応できるような取り組みができています	・日々のヒヤリハットをあげたものを毎月のMTの中で共有。特に共通認識が必要な事例を抽出し、どのようなところにヒヤリが潜んでいるかを検証する中で、事故防止に努めている。		○			・日々のヒヤリハットを記録する事、またMT内ではそこから特に気を付けたい事例をあげて検証してきた。職員間で共有するものの、どうしても同じような内容のヒヤリも繰り返される現実がある。成長過程において怪我に繋がりがかねない表れなども把握した上で、保育中の立ち位置なども意識し、安全な保育を行っている。 ・今年度は抜き打ちの災害訓練の機会も行った。叱咤の声掛けに戸惑いはあるが、訓練通り子ども優先の避難は出来ていた。日頃の備えの気持ちを大切に、万が一にも対応できるように訓練を引き続き行いたい。保護者にも、災害への意識を高めてもらえるよう、年1回の保護者参加の訓練に加えてお手紙などで啓発する機会も作ってきたい。
	事故防止	日々のヒヤリハットを集め共有し、園の子どもの特性を知っている 気を付けることや改善することを共有実践し大き	・災害訓練を毎月実施。地震・火災・不審者など様々な災害に遭った時に命を守る行動が取れるよう、意識を訓練に参加。毎回振り返りをクラス毎行い、子どもの状況を把握した上で改善点等考えていった。 ・保護者参加の、訓練も行い万が一に備えている。		○			
	防災	様々な災害を想定した訓練を行い、全職員が状況に応じた的確な行動がとれる 保護者にも災害に対しての知識を伝えている	・園内安全点検を毎月実施。危険箇所がないか確認。その他の気付きをMT時に全職員に共有をした。 ・日々の玩具の点検・園内施設点検では、玩具の破損などケガや誤飲につながる可能性のあるものはその都度修理や処分をし、事故が無いよう務めた。		○			
	環境	クラス・廊下・共有場所・避難経路の整理整頓ができており安全が確保できている 遊具・玩具等点検を行い修繕されている	・季節の感染症についての勉強会を行い、種類や症状、感染経路など知識を持った上で感染症発生時は適切な消毒等行う事で感染拡大に務めた。 ・感染症発生時には園内掲示をし保護者にも、情報提供を行った。		○			
	マニュアル理解	感染症マニュアルは実効性のあるものが策定されており、職員が内容を理解し、感染症や疾病についての知識を持ち対応できている	・感染症発生時には園内掲示をし保護者にも、情報提供を行った。		○			・感染症・アレルギーなどマニュアル理解に対して、どの職員も自

保健・食育	健康	健康に過ごすために年齢にあった習慣が身につけている	・食への意欲や心地よい入眠に繋がるよう、日中は程よく身体を動かす活動を取り入れていった。 ・季節により衣服の調整を行う事で、汗を掻きすぎず・服を着せすぎることがないように配慮を行った。保護者にも衣類の補充・着せすぎないことなど協力を仰いでいった。	○				・感染症・アレルギーなどマニュアル研修に対し、この職員も口信をもって誰かに伝えることが出来るとまではいかない。様々な状況に迅速に対応できるよう、マニュアル研修はMTの中で引き続き行っていく。 ・前年度、インフルエンザAが拡大してしまった。感染症流行時の消毒、過ごし方など流行時期に入る前に学び直しや確認は確実に行うことで感染拡大に努めていく。
		自ら体を動かすことで心と体の健康を保つ取り組みを行っている	・鼻水が出たら保育者が拭く(0・1歳児)・拭こうとする(2歳児)など歳児にあった声掛けを行い意識できるよう関わっていった。		○			・園の畑を利用し身近な野菜の栽培を行い、お世話をすることでより関心を高められるようになっている。クッキングなども活動に取り入れ、育てる喜び、収穫する喜び、食べる喜びをリアルタイムに感じられるようにしていきたい。
	食育	食に興味を持てるよう給食職員と連携しながら取り組みをしている	・2歳児を中心に野菜の栽培やパン屋さんへの買い物等の食育を行い、食への興味・関心が高められる活動を保育の中に取り入れた。 ・給食提供の際には、調理員も様子を見にきながら声を掛けることで、作った人の顔や気持ちが分かる取り組みを行った。		○			
		発達に応じた食事のマナーを伝えている	・給食を喜んで食べる、ことをねらいとし、友だちや保育者と楽しい雰囲気の中で一緒に食事をしたり、食具の使い方など年齢にあったマナーを知らせ行っている。		○			
組織運営	組織体制	コミュニケーションやチームワークを大切にしたい組織運営ができています	・職員同士のコミュニケーションを大切に、日々の報連相を丁寧にしている。短時間パートへの共有も行う事で、出勤日以外の様子が伝わるようまた、分からないことは積極的に聞くなど心掛けています。	○				・日々の何気ない語り合いの機会はクラスの壁を隔てて出来ている。毎日出勤のないパートさんへの共有もその日に入る保育リーダーから丁寧に聞き取りが出来よう双方が意識している。引き続き、チーム間でも連携を細かに行っていく。短バさんがルグミーやドキュメンテーションを確認するため、出勤してからの時間の確保を行うようにする。
		園長を中心に役割分担と責任が明確にされ迅速な対応ができる体制があり、担当の役割を全うできている	・園長・ミドルリーダーが全体把握をし各係の仕事の相談にのったり、必要に応じて意見を伝えるなどし、職員が積極的に動くことが出来るようにしている。		○			
		打ち合わせや会議・MT等が適時行われ、情報共有がしっかりできている	・MT内での共有だけでなく、毎日朝礼・屋礼を行い園や子どもの状況を把握し、保護者への伝達漏れなど無いようにしている。		○			
研修	研修の充実と質の向上	園内研修担当者が中心となり園の課題や園が目指す保育の充実について学びの場や語り合いの場が活発に作られている	・深めたい学びの内容、を募り研修のテーマに組み込むことで、意欲をもって参加できるよう毎月の園内研修を行った。研修の中では少人数で話し合いを行うことで職員一人一人の思いを聞くことが出来るような時間を多く持つようにした。		○			・『発達について』が保育者の中でルーティーン化しないよう園内研修の中で学び直しの年とした。
		園外研修へ参加し自身の保育の質の向上に努め園内の保育に活かされている	・園外研修では、グループ園での公開保育を実施。気付きや情報交換を行い、互いに刺激を持つ機会となるようにした。		○			・園内・グループ園研修においては意欲的に学ぶ姿勢を持つことが出来るよう、内容の吟味・コミュニケーションを深めることが出来るような実施手順を担当を中心に考えていく。
家庭保護者との支援と連携	保護者支援	保護者が子どもの想い・成長・発達を受け入れ子育てできるよう配慮している また保護者が子どもの最善を考え行動できるよう支援している	・日々の子どもの様子を口頭や連絡ノート・面談の様子から保護者の子育てに対する喜びや悩みを聞き、園の様子を知らせたり保育士としてアドバイスが出来るような寄り添いを心掛けている。		○			・朝の受け入れ、お迎え時、連絡ノート等保育士は、どの保護者とも関わる機会がある。丁寧な対応を心掛けることで信頼関係を築き、小規模らしい“みんなで保育をしている”安心感を保護者には感じて欲しい。
	家庭との連携	保護者との信頼関係が築けており、保育園での子どもの様子を伝え喜びやつまづきを共有し共に育てている 園と保護者で子どもの様子や成長を共に楽しみ喜び合っているような取り組みをしている	・保護者対応を丁寧に行う事で安心感を持ち、話やすい関係性を築くことが出来るようにした。また、参加会を通して、園での姿を間近に見る機会を年間2回設け成長を共に喜び合う・つまづきに対する対応と一緒に考えるなど行った。		○		・成長を共に喜ぶだけでなく、連絡ノートの中で家庭での困り感を記してある時には園の姿からのアドバイスが出来るよう、保護者にも寄り添っていきたい。	
近隣連携と学校の	(保育園)就学に向けた学校とのつながり (小規模)年少進級に向けた連携園とのつながり	(保育園)公開保育開催や公開授業へ参加、地域の情報交換の場へ参加し小学校との連携を図り就学がスムーズに行われるよう努めている (小規模)連携園との交流を行いスムーズに進級できるよう努めている	・今年度連携園に行く機会を持つことは出来なかったが、年少への転園を見据えて、困った時には言葉で伝えられるような関りや簡単な身の回りのことは出来るよう意識して行った。				○	・2歳児にとっては今より大きな集団になるにあたり、楽しみな気持ちを高めることが出来るよう、次年度に向けては連携園との交流をなるべく早い時期から図りたいと思う。
近隣連携地域の	地域に親しまれる園作り	豊かな経験がはぐくまれるように、地域の様々な人と場に関わる機会を大切にしている	・散歩の際には公園内で譲り合いのマナーを子どもにも分かりやすいよう伝えていった。 ・近隣の方との気持ちの良い挨拶など行った。 ・商店街へお散歩に出掛け、魚屋さんで魚を見せてもらったり、パン屋さんで買い物に出かけたりも、地域と園とが繋がる機会をもっていた。		○			・保育園を中心とした各所にお散歩コースがあるため、歩く際のマナーや近隣の方との気持ちの良い挨拶を保育者自身が行うことで、地域の方々との交流に繋がっていききたい。 ・ばるすさんとの交流も令和7年度は出来なかったため、また機会を持ちたい。